

オンラインツールを用いたピア・レスポンスに関する授業実践の動向

Trends in Class Practice on Peer Response Using Online Tools

胡 芸群*, 山口 昌也*
Ichun KO*, Masaya YAMAGUCHI*

*国立国語研究所

*National Institute for Japanese Language and Linguistics

<あらまし> 本研究では、国内の大学教育の現場において、オンラインツールを用いたピア・レスポンスの授業実践を報告している論文をレビューした。文献検索で得られた 19 件の文献を整理したところ、初年次教育 5 事例、日本語教育 14 事例の授業実践が抽出された。オンラインツールを用いた PR の活動は、主に 4 つのタイプが確認された。また、PR の形態として、同期型、非同期型、混合型の 3 つが見られた。さらに、PR の実践においては、Moodle, manaba, Zoom, Google などのオンラインツールを活用していることが確認された。

<キーワード> ピア・レスポンス, オンラインツール, 授業実践, 文献レビュー

1. はじめに

日本語教育におけるピア・レスポンス（以下、PR）実践研究は、2000 年以降、日本語教育において留学生を対象とした実践が広まった。PR とは「学習者が自分たちの作文をより良いものにしていくために仲間同士 (peer) で読み合い、意見交換や情報提供 (response) を行いながら作文を完成させていく活動方法」（池田 2004）である。これまでは、対面での活動が主流だったが、ICT の普及に伴い、コロナ禍以前からコンピュータを媒介した非同期型の PR の実践も行われている。また、コロナ禍以降、多くの大学において、オンライン授業が実施され、オンラインツールを活用した同期・非同期型 PR の実践も報告されている（嶋田ほか 2022 など）。今後、LMS を活用した対面・オンラインのブレンド型授業において、PR をどのように効果的に実施できるのか、その方法や課題に関する知見を得ることは意義があると考えられる。そこで、本研究では、オンラインツールを用いた PR の授業実践を報告している論文をレビューし、実践への示唆を得たい。

2. 研究方法

2.1. 対象論文の選定

本研究では、「オンラインツールを用いた PR」を分析対象とする。文献について、CiNii（国立情報学研究所 (NII) が提供する論文情報データベース）にて、「オンライン OR 非対面」「PR」をキーワードに AND 検索を行っ

た結果、33 件がスクリーニングの対象となった。対象文献全てを確認し、オンラインツールを使用していない文献、発表要旨や書評における PR 実践研究は対象外とした。最終的に分析の対象としたのは 19 編である。

2.2. 分析データの作成

論文著者である教師の PR 実践の目的、PR の実践方法、使用したオンラインツールに着目して論文を読み込み、分析項目ごとに該当する論文を集計し、分析データとした。分析項目には CiNii に記載されている一般情報項目に加え、授業対象者、作文テーマ、論文の問い、研究デザイン・方法、PR に対する評価などを入力して一覧表を作成した。

3. 結果と考察

3.1. オンラインツールを用いた PR の実践動向

教室において、対面による PR の実践は 2000 年頃から実施されてきた。一方で、オンラインツールを用いた PR の実践は 2010 年頃から実施され、徐々に対面 PR から非対面 PR へ移行し、Moodle が主なオンラインツールとして用いられた。さらに、2020 年のコロナを契機に、オンラインツールを用いた PR の実践が大幅に増え、Moodle のほかに、Zoom や manaba などのオンラインツールが使用されるようになった。

3.2. オンラインツールを用いた PR の活動タイプ

オンラインツールを用いた PR の活動は表 1 の通り、主に 4 つのタイプに分けられる。また、PR の形態として、同期型、非同期型、混合型の 3 つに分けられる (表 1)。

表 1 PR の活動タイプ

授業形態	PR の形態
1 対面授業	対面と非対面 (混合型)
2 対面授業	非対面 (非同期型)
3 オンライン授業	オンライン (同期型)
4 オンライン授業	非対面 (非同期型)

3.3. PR 活動で使用するオンラインツールの種類

PR 活動でよく用いられたオンラインツールには、Moodle, manaba, Zoom, Google ドライブ, Google Classroom, TEachOtherS などが挙げられる。

表 2 オンラインツールの種類

PR の形態	使用するツール
対面と非対面	Moodle
非対面 (非同期型)	Moodle, Google ドライブ, Google Classroom, manaba, Word, TEachOtherS
オンライン (同期型)	Zoom, Google スプレッドシート, manaba

3.4. PR の授業に見られたオンラインツールの機能

3.4.1. オンラインツールを用いた PR の授業形態

オンラインツールを用いた PR の授業は、主に日本人学生を対象とした初年次教育と日本語学習者を対象とした日本語教育で実施されている。また、授業の受講者数によって、PR 活動のグループ編成は、それぞれ 4~6 名、2~4 名と異なっている。さらに、作文のテーマは、自己紹介文、説明文、意見文、レポートなどが挙げられる。

3.4.2. 活動別に用いられたオンラインツールの活用方法

PR の授業において、活動内容によって、使用するオンラインツールが異なっている。まず、Moodle は主に学生が書いた文章を提出する際に用いられる。また、グループによる PR 時に、文章の共有、添削の共有としても使われている。一方で、manaba は教師が授業管理をする際に、資料・課題の配布、成績の管理などに使用されている。Google

Classroom, ドライブ, フォームに関しては、それぞれ文章の提出、文章の共有・添削の共有、振り返りシートの記入・提出などを活用していることが確認された。さらに、Zoom に関しては、ブレイクアウトルームセッションを使用し、文章の共有と添削の共有が可能であることが確認された。

表 3 オンラインツールの活用方法

Moodle	文章の提出、文章の共有、添削の共有
manaba	資料・課題の配布、掲示板機能を用い、コメント記入、文章の提出、成績の管理
Google Classroom	文章の提出、資料・課題の配布
Google ドライブ	文章の共有・添削の共有
Google フォーム	活動に対する個人の振り返りシートの記入・提出
Zoom	ブレイクアウトルームセッションを用い、文章の共有、添削の共有

4. まとめと今後の課題

本研究では、オンラインツールを用いた PR の授業実践を報告している論文をレビューした。分析の結果、オンラインツールを用いた PR の活動は、主に 4 つのタイプが確認された。また、PR の形態として、同期型、非同期型、混合型の 3 つが見られた。さらに、PR の実践においては、Moodle, manaba, Zoom, Google などのオンラインツールを活用していることが確認された。

なお、本研究では、オンラインツールを用いた PR と対面による PR との比較は行うことができなかったため、今後の課題としたい。

謝辞 本研究は国立国語研究所の共同研究プロジェクト「日本語学習者の作文教育支援研究」の一環として行われた。

参考文献

- 池田玲子 (2004) 日本語学習における学習者同士の相互助言 (ピア・レスポンス). 日本語学 23-1, pp.36-50
- 嶋田みのり・斉藤幸一・宮原千咲 (2022) LMS を活用した非同期型ピア・レスポンスの実践の試み. アカデミック・ジャーナル 14, pp.1-8